

『宝塚の昆虫 I - VII』の補遺 (III)

東 正 雄*

SUPPLEMENTS (III) OF 『INSECTS IN TAKARAZUKA (I - VII)』

Masao AZUMA

兵庫生物第11巻第1号(平成7年8月)に「宝塚の昆虫 I - VII」の補遺(II)と題して15種を報告した。その後追加すべきものが若干判明したので、ここに報告する。

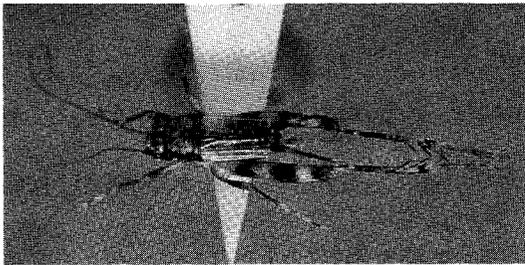
資料提供は主に新家勝である。

元神戸大学教授奥谷禎一から平成4年3月私信による追加種名を受けた。

写真撮影は兵庫県立川西緑台高校東良雄教諭である。上記の方々に対して厚く感謝する。

『宝塚の昆虫 I』 p.29、23の次へ追加

(23') カワラスズ *Pteronemobius furumagiensis*
(Ohmachi & Furukawa, 1929)



8 mm

マダラスズに酷似するが、♀の前翅のつけねの処に白い部分がある。体長8mm内外である。

分布：本州・四国・九州・対馬
宝塚では中山寺の足洗川谷
(10-Sep.1996, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫 I』 p.32、29の次へ

(29') クマスズムシ *Scleropterus coriaceus*
(de Haan, 1877)

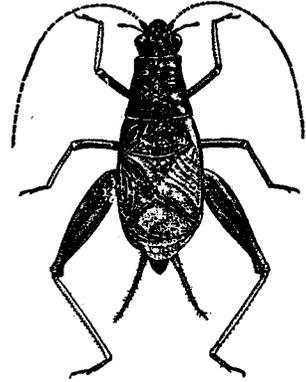
体長9-11mm、黒色、頭と前胸背は点刻を密布している。前胸背は長く後方へ開く。♀は♂より短かく、前縁は頭より幅広く、後縁と共に、わずかに後方へ湾曲する。♂の亜生殖板は舟底形、産卵管は細長く、後腿節より著しく長く背方へ少し曲り黄褐色、♂の前翅は幅広く尾端は達しないのが普通だが、稀には達する個体もある。肢は短大・褐色、腿節末端以下は黄褐色。卵で越冬し年1化。成虫は8月中旬頃から出現。

分布：本州(東京以西)・四国・九州・対馬・沖縄・

慶良間列島

宝塚では西谷鳥脇

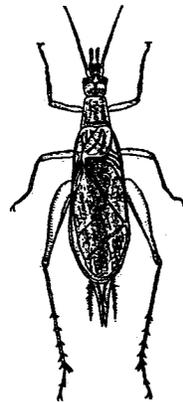
(26-Mar.1992, 奥谷禎一私信)



日本昆虫図鑑(素木・大町, 1950)

『宝塚の昆虫 I』 p.34、32の次へ

(32') タイワンカンタン *Oecanthus rufescens*
Serille, 1839



日本昆虫図鑑
(大町, 1950)

体長14-15mm、体は細長く淡い黄緑色の個体が普通であるが、濃緑のもの、濃淡の黄緑色の個体も見られる。頭は小形長方形、赤味がかかる。触角は体長の2倍内外、♂前翅は長茄子形、尾端を越える。発音鏡の部分はよく発達して、透明。幅はカンタンよりも広い。後翅は前翅よりも更に長い。♀の前翅は幅狭い。後腿節の棘は細短く3、4本。尾毛は短く、産卵管は長く尾毛の2倍内外。卵で越冬し、年2化。成虫は8月上旬と10月

中旬に出現する。

分布：本州(京都市、和歌山県の海辺)・四国(徳島

* 宝塚市宝梅1丁目13-7 東生物研究所

県)・石垣島・西表島; フィリピン・マレー・インド・スリランカ・ニューギニア・オーストラリア

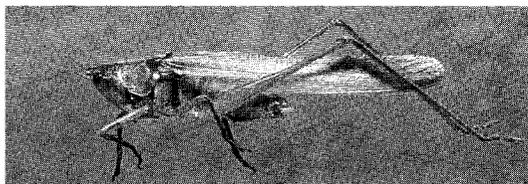
宝塚では長尾山墓地・売布神社の池の周辺、松風閣の横の空池

(26-Mar.1992, 奥谷禎一私信)

『宝塚の昆虫 I』p.37、37の次へ

(37') クサキリ *Homorocoryphus lineosus*

(Walker, 1869)



クビキリギリスに酷似するが、次の標徴によって区別できる。頭頂突起は短く、末端まるく、下面は円い。前胸背は短かく、側片は♂では後角鈍角となる。♂の尾毛末端の2棘は細長、産卵管は直線。前翅は比較的短かく、末端円い。体長(翅端迄)40~50mm、産卵管の長さ18~30mm。

分布: 本州・佐渡島・伊豆諸島、隠岐島・四国・九州・対馬; 台湾・東南アジア

宝塚では西谷大原野少年自然の家

(26-Aug.1996, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫 I』p.79、108の次へ

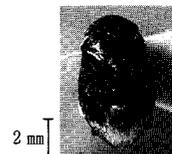
クロヒラタヨコバイ科 Penthimidae[®]

Kirschbach, 1868

前頭は側面からみると著しくくぼむ。前翅の付属片は大で、その第1先端室は、第2・3室を合わせた大きさに等しい。体は幅広く、扁平である。

(108'') クロヒラタヨコバイ *Penthimia nitida*

Lethierry, 1876



体長5~6mm、光沢強い黒色。顔は幅広く、短く、黒色。前胸背板の後半は繊細な横の皺がある。小盾板も後半には同様の横皺があり、末端点は灰白色である。

前翅は光沢ある黒色、末端部は灰白色~淡褐色。爪状部は幅広く、先端は截断状で、その縁は淡褐色。体の腹面と脚は黒色である。

分布: 本州・四国・九州・沖縄・久米島・西表島; シ

① Penthimia+idae ギリシャ語 penthimos 悲しみに沈んだ。

ベリア・朝鮮半島・中国・台湾

宝塚では西谷上佐曾利

(28-Apr.1986, 仲田採集)

『宝塚の昆虫 I』p.122、189の次へ

(189') チャイロナガガメムシ *Neolethaeus dallasi*

(Scott, 1874)



体長7~8mm内外、体は暗褐色、頭部は黒色、前方へ突出する。複眼は黒色、単眼は淡紅色、触角は暗褐色、第1節最短、第2節最長。前胸背は梯形、黒褐色。小盾板は暗褐色。半翅鞘は暗褐色、革質部の前縁の基半は細く黄白色、その末端の近くは不明瞭な三角形に近い黄白紋がある。

膜質部は暗褐色。

体の下面と脚は暗褐色。脛節と付節はやや淡色となる個体が多い。

分布: 本州・四国・九州・琉球; 韓国・濟州島・台湾。

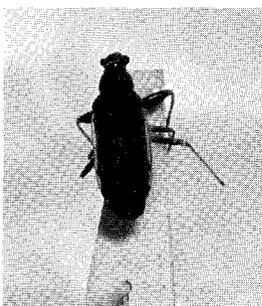
宝塚では南口2丁目(宝塚大橋の灯火)、

(20-Sep.1979, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫 I』p.122、191の次へ

(191') キベリヒョウタンナガガメムシ

Paraparomius lateralis (Scott, 1874)



体長5mm内外、体は暗褐色、複眼やや大きく黒色。半翅鞘の前縁黄緑明白。前脚の腿節は太く黒色、その後縁に数個の棘状突起がある。

分布: 本州・四国・九州; 韓国・濟州島

宝塚では武庫川町(宝塚大橋)

(29-Aug.1982, 新家勝採集)

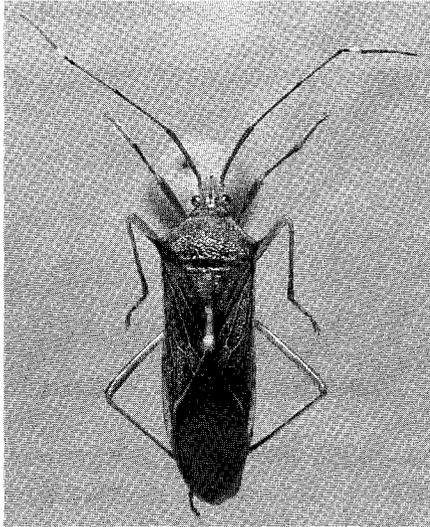
『宝塚の昆虫 I』p.129、205の次へ

(205') ミナミトゲヘリカメムシ

Paradasynus spinosus Hsiao, 1963

オオクモヘリカメムシ *Anacanthocoris striicornis* に類似するが、触角第1節基方は紅色でなく、前胸背後方の側面に、著しく鋭い棘状突起がある。体長18.5mm。

分布：本州・九州・奄美・沖縄；台湾・中国
宝塚では西谷切畑検見
(24-Sep.1996, 新家勝採集)

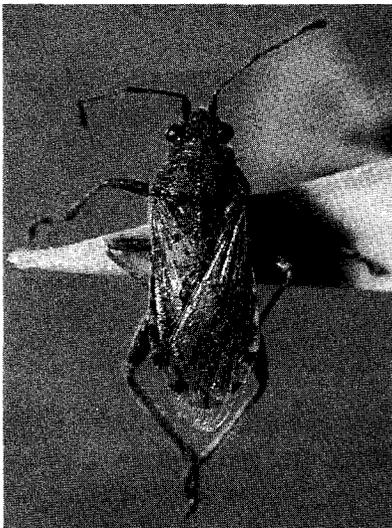


3 mm

『宝塚の昆虫 I』 p.130、208の次へ

(208') スカシヒメヘリカメムシ

Liorhyssus hyalinus (Fabricius, 1794)



1 mm

体長7-8mm内外、体は褐色。頭部は暗褐色。前方へ少し突出る。複眼は黒色。単眼は淡紅色。触角は淡褐色。第1節最短、第2節最長。半翅鞘は褐色、やや透明で腹

背の黒色横紋が見える。体の下面と脚は暗褐色である。

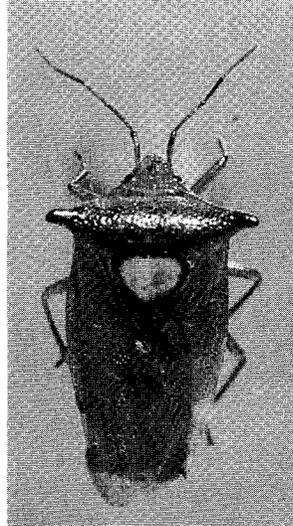
分布：北海道・本州・小笠原諸島・九州・琉球；汎世界。

宝塚では安倉北上池 (23-May.1987, 新家勝採集)
西谷上佐曾利 (28-Apr.1986, 仲田採集)

『宝塚の昆虫 I』 p.146、249の次へ

(249') モンキツノカメムシ *Sastragala scutellata*

(Scott, 1874)



2 mm

エサキモンキツノカメムシ *S.esakii* Hasegawa に酷似しているが、小盾板の黄色紋が円いので区別できる。体長13mm

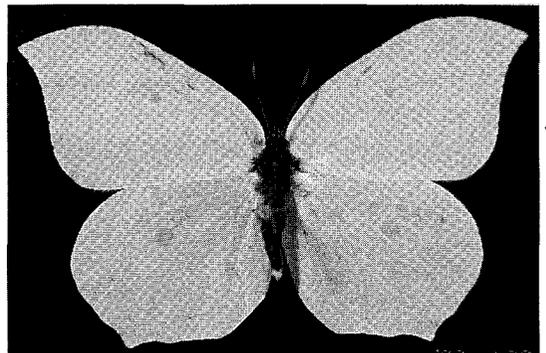
分布：本州・四国・九州；台湾・中国

宝塚では中山寺
(23-Dec.1993, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫 I』 p.161、275の次へ

(275') スジホソヤマキチョウ

Gonepteryx aspasia nipponica Bollow, 1930



原寸大

翅の開張58~63mm内外、♂翅表は黄色、♀の翅の地色淡黄白色。関西での蝶の出現は9~10月頃山地性、食餌はクロウメモドキ科のクロウメモドキである。年1化、成虫で越冬。この蝶に酷似するヤマキチョウ *G.rhamni maxima* Butler, 1885は後翅の第8脈が太く

明瞭。中室端の橙黄色紋は前種より大である。前翅の翅端の鉤状に突出する部分が鈍角であるなどで区別できる。出現する個体数は著しく少ない。

分布：本州・佐渡島・四国・九州

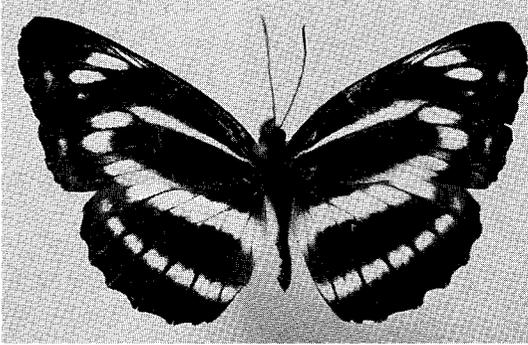
宝塚では西谷香合新田

♂ (7-Oct.1994, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫Ⅰ』p.191、317の次へ

(317') ミスジチョウ *Neptis philyra excellens*

Butler, 1878



原寸大

翅の開張64mm内外、前翅中室内の白斑は分裂しなく、細長となる。第4室にある白斑は大で中室に接近している。外縁の白点列は不明瞭。後翅裏面の白色の2広帯間に細い1帯がない。以上の諸点によってコミスジと区別される。

分布：北海道・本州・佐渡島・四国・九州・対馬

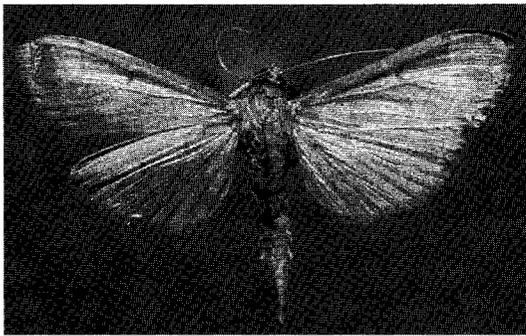
宝塚では西谷大原野西部

(7-Jun.1995, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫Ⅴ』p.109、624の次へ

(624') マエキノメイガ *Herpetogramma rudis*

(Warren, 1892)



前翅開張23~26mm内外、下唇鬚の下方は白色、他は黒褐色。♀の体翅の色はやや淡い。6~9月に出現、燈火

によく飛来する。

分布：本州・四国・九州・対馬・屋久島；中国

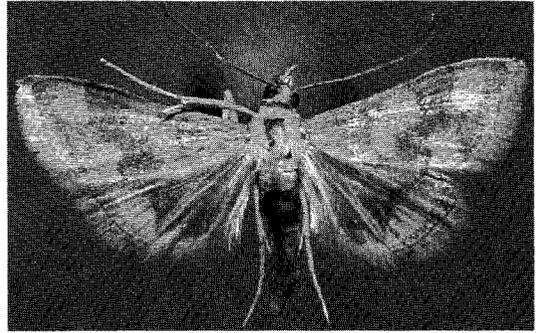
宝塚では宝梅1丁目(♀) 24-Sep.1988、光明町

♀ (27-Sep.1988, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫Ⅴ』p.116、635の次へ

(635') ベニフキノメイガ *Pyrausta panopealis*

(Walker, 1859)



前翅開張17.5mm。♀触角は糸状。翅の地色は橙黄色、紫紅の斑紋が現われる。年3回発生、幼虫で越冬する。幼虫はシソ・エゴマの害虫である。

分布：本州北部以南に広く分布する。

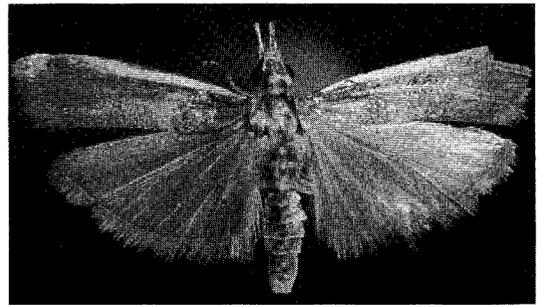
宝塚では光明町

♀ (17-Jun.1995, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫Ⅴ』p.138、682の次へ

(682') シロイチモンジマダラメイガ

Etiella zinckenella (Treitschke, 1832) (♂)



前翅開張21mm内外。頭部は褐色鱗によって著しく突出している。♂は触角基部近くでやや湾曲肥厚し、その内方に褐色鱗塊がある。下唇鬚は著しく長く前向し、末節は少し下向する。年3~4回発生、1化の成虫は5~6月、2化は7月。3化は8月、4化は9月頃出現する。前翅には鱗片による隆起帯がある。

分布：北海道・本州・四国・九州・沖縄・久米島・阿嘉島；台湾・東洋熱帯・東南アジア・太平洋諸島・中国・

韓国・中国東北部・シベリア・インド・ヨーロッパ・アフリカ・アメリカ

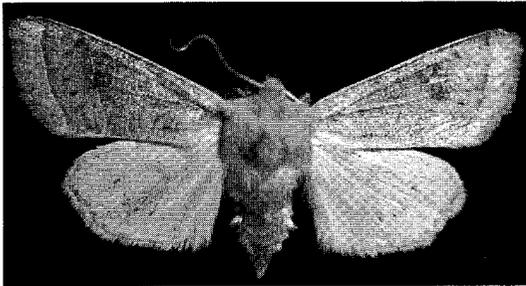
宝塚では光明町

♂ (12-Sep.1988, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫V』 p.174、754'の次へ

(754') ヨモギキリガ

Orthosia ella (Butler, 1878) ♂



前翅開張40mm内外。♂の触角は鋸歯状で繊毛がある。亜外縁線は明瞭。他の横線は不明瞭。後翅は汚褐色。出現は本州・北海道・四国であるが稀である。

分布：北海道・本州・四国・アムール

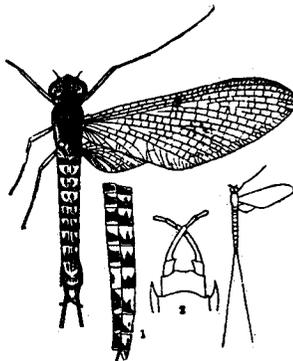
宝塚では光明町

♂ (22-May.1990, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫VI』 p.20、6の次へ

(6') オオフタオカゲロウ *Siphonurus binotatus*

Eaton, 1892



日本昆虫図鑑 (上野, 1950)

1. 腹部側面図、2. ♂第10節腹面図。

♂体長19mm、♀22mm。翅開張40~43mm、尾28~32mm。頭部黒色、複眼灰色。胸背は褐黒色、各腹節は黄色の地

に濃黒褐色の斑紋がある。尾は2本。基部 2/5は黒褐色、残りは黄色。前翅は無色透明、先端部のみ琥珀褐色。前縁中央部に濃褐色の斑点がある。翅脈は褐色。中脈は分岐し、第1臀脈と第2臀脈の間には後縁に達する多くの間脈がある。肢は黄色、各肢共爪は同形、把持子は細長く、4節、黒褐色、先端に至るに従って淡黄色となる。

分布：本州・四国

宝塚では南口二丁目宝塚大橋の灯火に飛来 (6-May.1979, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫VI』 p.20

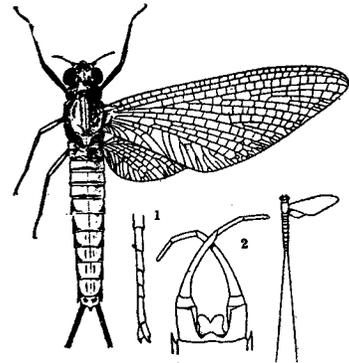
ヒトリガカゲロウ科 Oligoneuriellidae¹⁾

前翅のScはR₁と癒合しているか、またはなく、基部のみに見られる。♂の複眼は同じ大きさの小眼からなる。幼虫の腿節と脛節に長い2つの刺列がある。世界には13属90種、日本では2属2種が知られる。

『宝塚の昆虫VI』 p.20、(6')の次へ

(6') チラカゲロウ *Isonychia japonica*

(Ulmer, 1919)



日本昆虫図鑑 (上野, 1950)

1. ♀後肢の付節(♀) 2. ♂第10節腹面図。

全形図は亜成虫。

一名スミレフタカゲロウ・シロフタカゲロウ、(チラは信州伊那地方の方言である。)

体長16~18mm、翅開張36~40mm内外、頭部♂漆黒色、♀は黄色。複眼は黒色。前胸背は暗栗褐色。中・後胸背は栗褐色。最初の3腹節は栗赤褐色、他の腹節は赭褐色。第2-第9腹節の背面には1対の暗褐色の線状紋がある。♂腹部は赤褐色で線状紋は不明瞭。尾は2本、基部黒色、

1) *Oligoneuria*+idae、ギリシャ語 Oligos 少しの+ギリシャ語 neuron 血管、脈。

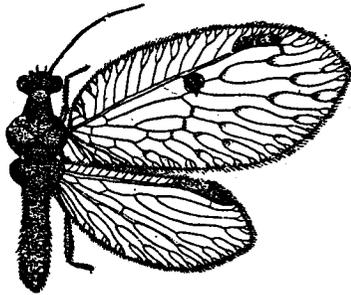
Oligoneuria は現在 *Oligoneuriella* に変っている。

次第に褐色となり尖端部は白色。前翅は無色透明、翅脈は黄色。前肢は黒、中・腹肢は黄色。♂第10腹節は腹面で深い切れ込み、広く左右に分かれる。把持手は4節で長い。5～6月に羽化する。

分布：本州・四国・九州：ソ連極東部・朝鮮半島
宝塚では武庫川町宝塚大橋の灯火に飛来
(8-May.1979, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫VI』p.49、33の次へ追加する。

(33') ミドリヒメカゲロウ *Notiobiella subolivacea*
(Nakahara, 1915)



日本昆虫図鑑 (1950, 桑山)

体長4mm内外、翅開張15mm内外、頭・胸部は黄緑色。触角は黄緑色、複眼黒色、脚は淡黄色、前翅無色透明。前縁部は幅広く、翅端は円い。脈淡緑、翅端に接する部分は叉状分岐している。2径分脈がある。第1、第2径分脈間を連ねる横脈は黒色を呈し、顕著な点紋となる。後翅は著しく小さく、無色透明、脈淡緑、縁紋は広く淡灰色、腹部は淡黄褐色。成虫は晩秋又は早春に採集できるが少ない。

分布：本州(近畿地方)・四国・九州・対馬・西表島：台湾

宝塚では中山寺、足洗川谷
(31-Jan.1988, 新家勝採集)

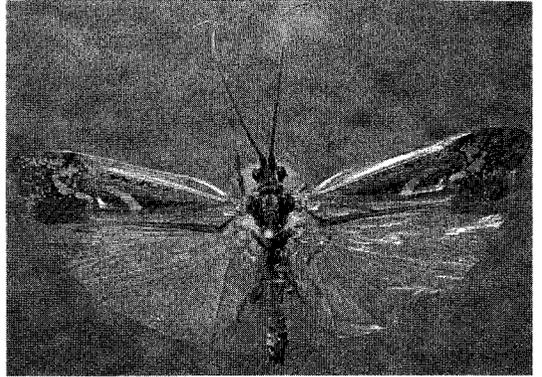
『宝塚の昆虫VI』p.75、65の次へ

(65') ウスバキトビゲラ *Limnephilus orientalis*
(Martynov, 1935)

体長12～15mm、翅開張32～38mm。距式は1～3～4。前翅は光沢ある半透明、淡黄色、後縁部淡黄褐、縁紋部に濃褐の2紋がある。翅基方の中央に透明斜帯がある。後翅は無色透明。成虫は6～11月に出現する。

分布：北海道・本州・佐渡島・四国・九州；サハリン・シベリア・アムール・中国

宝塚では武庫川町宝塚大橋の燈火に飛来
(9-Nov.1983, 新家勝採集)

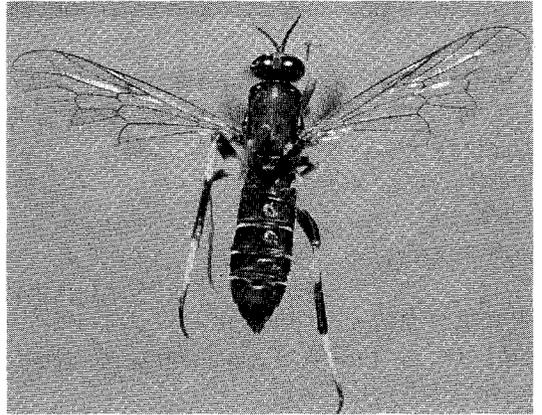


3 mm

『宝塚の昆虫VI』p.137、140の次へ追加する。

キアブモドキ科 Xylomyidae

(140') ミツボシキアブモドキ *Xylomya moiwana*
(Matsumura, 1915)



3 mm

♀体長14.5mm内外。体は黒色であるが、両翅の基部後方、小盾板端、腹部第2～第4節の後縁。前肢の腿節、脛節、中肢、後肢の脛節前半、第1跗節などは黄白色を呈している。

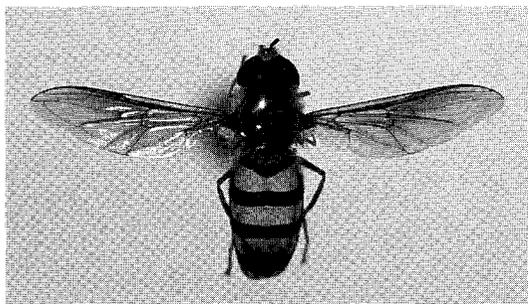
翅は淡褐色半透明、翅脈は淡褐色である。触角短く、基部の内側は褐色がかっている。

分布：北海道・本州；ソ連極東部・中国
宝塚周辺では西谷大原野
(18-Jun.1987, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫VI』p.157、172の次へ

(172') タイワンオオヒラタアブ

Metasyrphus (Metasyrphus) confrater
(Wiedemann, 1830)



♂体長14.5mm内外、体は黒色、額突起は大きく、♂では黄色、♀では黒褐色。胸背は短かく、♂では、黄金色。♀では銅色の光沢がある。小盾板は黄蠟色。肢は黄褐色、♀では特に後肢のみ暗褐色。腹部は偏平。第2～4各節には幅広い。1黄帯が現われ、第1のものは中央でくびれる。第4、5両節の後縁と第5節の前縁は黄色である。

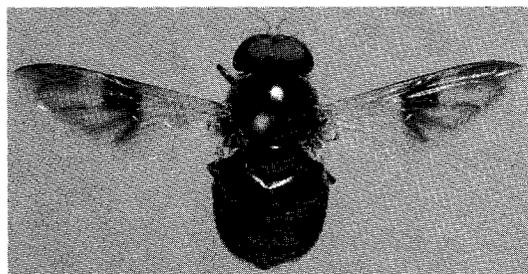
分布：本州・四国・九州・沖縄；中国・東洋区・ニューギニア

宝塚周辺では売布山手町

(22-Oct.1995, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫VI』p.167、191の次へ

(191') クロベッコウハナアブ *Volucella nigricans*
Coquillett, 1898



♂体長18～20mm内外、体は黒色、有光沢。頭は半球形、額は細長、栗色、前方橙黄色、♂では細小で長三角形、複眼接合線は長い、額突起は小さい。触角は橙黄。翅の1/2基部は橙黄色、その他は煤色。中央に黒褐色の方形紋があり、末端前縁に暗色大紋が現れる。腹部第2節基部は淡黄色、その他の腹部は黒色。

分布：本州・九州・対馬・壱岐；朝鮮半島・台湾

宝塚周辺では中山寺足洗川

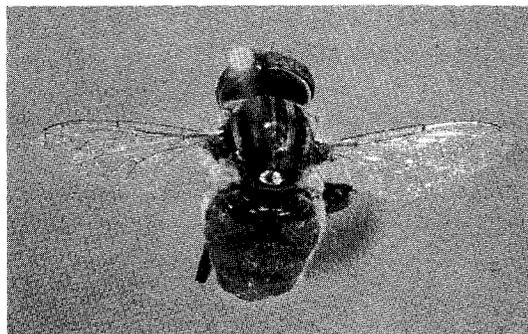
(6-Jul.1985, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫VI』p.169、195の次へ

(195') タテジマクロハナアブ

Eristalinus (Eristalinus) sepulchralis

(Linnaeus, 1758)



♀体長 8.5mm内外、体は黒色、頭は小、複眼は左右離れる。触角は赤褐～黒褐色。胸背は短かく、灰色粉からなっている細縦線が現われる、その外方の線は横溝上の細灰線で互に連続する。♂では上述の線は殆ど不明。

脚は黒褐～黒色。腹部は短大で銅色光沢が現われる。

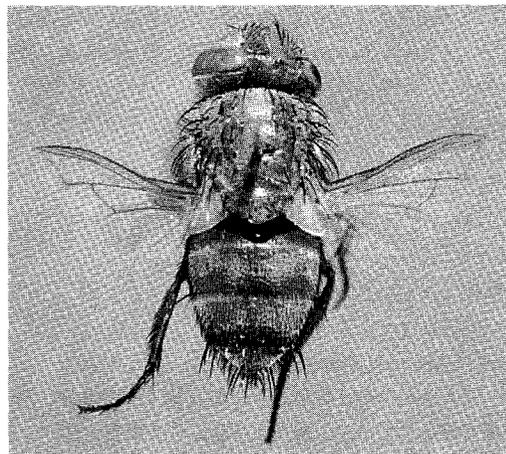
分布：本州・四国；旧北区・東洋区

宝塚周辺では武庫川堤防（小浜1丁目）

(22-Jul.1984, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫VI』p.207、245の次へ

(245') オオズクロスジハリバエ *Gonia chinensis*
Wiedemann, 1824

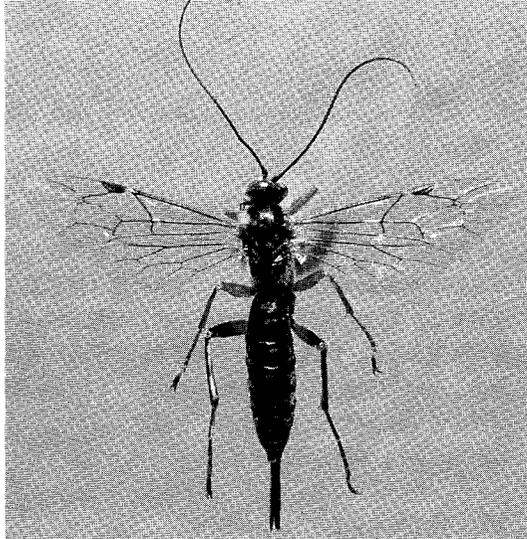


♂体長12.5mm内外、体は灰黄色、複眼間は著しく膨大で、胸背には淡黄色粉が密布し、4条の細い黒色縦線が現われる。腹部背面の中央に黒色縦線があり、その両側は赤褐色、半透明である。複眼は無毛、触角は著しく長大、第3は第2節の長さの5倍以上、第2節は赤褐色、第3節は黒色。肢は黒色。♀の腹部第4節・第5節の背

面は黒色であるから、中央の黒色縦帯は不明瞭である。

分布：北海道・本州・九州；中国・台湾・東南アジア
宝塚周辺では武庫川、美坐2丁目
♂ (3-Nov.1990, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫Ⅶ』p.62、51の次へ
(51') イチモンジヒラタヒメバチ
Coccygomimus parnarae (Viereck, 1912)



体長16mm内外、産卵管5mm内外、触角長く13mm内外、黒色。前翅開張30mm内外、体は黒色。脚は赤褐色、後肢の腿節中央以下は黒褐色である。

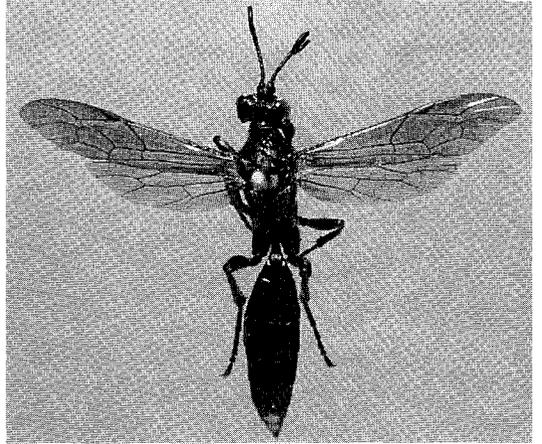
分布：本州・四国・九州・石垣島；千島・サハリン・中国・韓国・台湾
宝塚周辺では武庫川町
(2-May.1996, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫Ⅶ』p.64、54の次へ
(54') シロコブヒメバチ

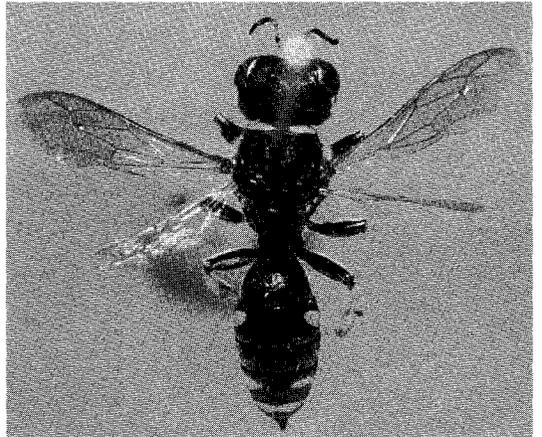
Barichneumon leucomelas (Gmelin, 1790)

♀体長28mm内外、体は黒色。腹部第6節の後縁、第7腹節は白黄色である。触角は黒色、中央に黄白紋がある。翅はやや暗色、鏡胞は五角形である。脚は黒色、前脛節・附節、後脚の附節は黒褐色。

分布：北海道・本州・四国・ヨーロッパ（旧北区）
宝塚周辺では大峰山 (8-Sep.1979, 新家勝採集)
島根県大万木山 (600m) (6-Oct.1979, M.Azuma)
西宮市中葎原町 (♀23-Jul.1954, M.Azuma)



『宝塚の昆虫Ⅶ』p.247、227の次へ
(227') ナミギングチバチ
Ectemnius (Hypocrabra) continuus
(Fabricius, 1804)



♀体は黒色、体長12mm内外、腹の腹面や脚先端は黒褐色、小腿の大部分・触角柄節・前胸背後縁左右の横線・中胸小箱板の両側の小点・後胸背中央の横線・腹背第2節と4節の両側にある楕円紋・第5節中央の横線・脚脛節と附節の斑紋等は黄色。翅は灰褐色、尾端には黄褐色毛がある。

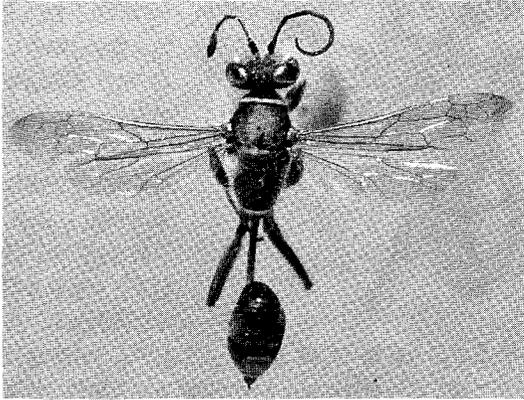
分布：北海道・本州・四国・九州・対馬；千島・サハリン・朝鮮半島・ヨーロッパ・全北区
宝塚周辺では武庫川川敷（小浜1丁目）
♀ (19-Aug.1979, 新家勝採集)
川西市緑台公民館付近 (20-Aug.1992, M.Azuma)

『宝塚の昆虫Ⅶ』p.245、223の次へ追加する。

(223') ニッポンモンキジガバチ

Sceliphron (Prosceliphron) deforme nipponicum

Tsuneki, 1972



体は黒色、触角柄節の前面、前胸背板上の1横線、中胸側板上の2紋、中胸小侏板上の1小紋。前伸腹節側部の1紋、その後縁は黄色。頭脩は黄褐色、脚は黒褐色。腹部第1、2節の後縁は赤褐色。第3節以下各節の後縁は黄褐色。腹柄は1節である。翅は灰褐色、外縁は少し濃い。体長19mm内外。

分布：本州・九州

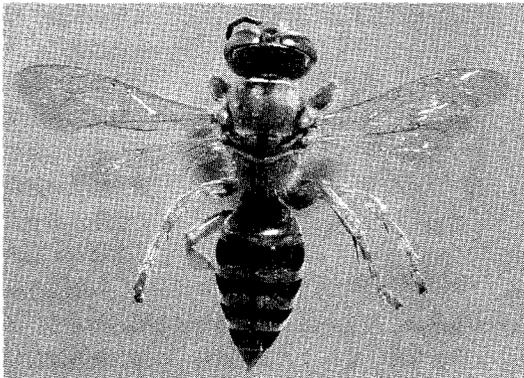
宝塚周辺では西谷大原野

(22-Sep.1991, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫Ⅶ』p.251、231の次へ

(231') アカアシハヤバチ *Tachytes modestus*

F.Smith, 1856



♀体長14mm内外。体は黒色、頭部には黄褐色毛を生じ、顔面や頭脩は多い。胸部は黄褐色の短毛密生する。腹背第1-4の4節の後縁には銀白色の短毛が密生する。腹背第6節の背板は黄褐色毛を密生する。脚の基節から腿

節基半は黒色、その他は赤褐色で黄褐色短毛が密生する。♂の腹背第7節には銀白色短毛が密生している。

分布：本州・四国・九州・屋久島・与那国島；中国・朝鮮半島・台湾・ビルマ・インド

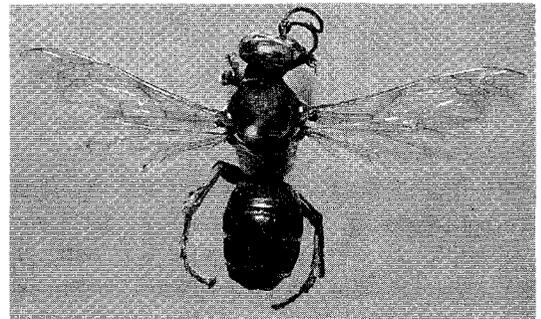
宝塚周辺では武庫川川敷の小浜1丁目

♀ (19-Aug.1979, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫Ⅶ』p.251 (231') の次へ追加する。

(231'') オオハヤバチ *Tachytes sinensis sinensis*

F.Smith, 1856



体長20mm内外、前翅長17.5mm内外。

ニッポンハヤバチ *T.nipponicus* に酷似するが、腹部やや肥大であり、腹部4~6背板には長刺毛がないことが特徴である。

分布：本州・四国・九州・屋久島；中国・朝鮮半島・タイ

宝塚では中山寺足洗川谷

(23-Aug.1986, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫Ⅶ』p.256、237の次へ追加する。

(237') ヤマトスナハキバチ

Bembecinus hungaricus japonicus (Sonan, 1934)



日本昆虫図鑑 (安松, 1950)

♀体長10mm内外、前翅長7mm内外、♂の腹端に3本の長棘がある。体は黒色、有光沢、触角の柄節下面・顔面の下半の両側・頭脩・上唇前縁、腹部の第1、2、4各背板後縁の横紋は黄色~黄白色。翅は透明、翅脈は褐色。体全体に灰白色の短毛を密生する。上唇は頭脩の下方に著しく現わ

れ、前縁は円形である。前肢の第1～4付節の外縁には長刷毛がある。前伸腹節の両側稜の後縁は深く嚙入して、下端は突起となる。砂土の中に営巣し、ウンカ類を捕食する。

分布：北海道・本州・九州・屋久島

宝塚では武庫川堤防

♀ (16-Jul.1997, 新家勝採集)

(237'') アナバチ科 Sphecidae

ドロバチモドキ亜科 Nyssoninae

キアシハナダガバチモドキ *Stizus pulcherrimus*

(F.Smith, 1856)

♀体長23mm内外、体は黒色、頭部の中央上部を除く大部分。上唇・複眼の内縁及び外縁にそう線斑、前胸後縁、肩板、その内側に接する点斑、中胸小侏板の大部分。後胸背板上の1横線、腹背第1～第4節の4節両側の基部にある不規則紋、第5節基部中央にある小斑等は黄色。脚の腿節・脛節・付節は赤褐色、翅は黄褐色、翅脈は黒褐色。巣は地中である。成虫は直翅目のバッタ類などを捕える。



東洋町武庫川堤防 (12-Aug.1983 新家勝)
ノブドウの花に飛来したとき。

分布：本州・四国・九州；朝鮮半島・中国・モンゴル。

宝塚では東洋町武庫川堤防

♂ (12-Aug.1983, 16-Jul.1997, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫Ⅶ』p.256、(237') の次へ追加する。

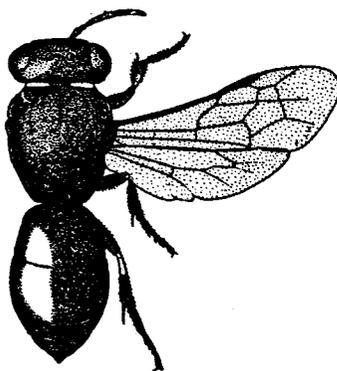
ムカシハナバチ科 (旧称ミツバチモドキ科) Colletidae

中舌は短く、幅広く、先端が丸みをもつか、2又する。中脚基節の長さは、その基部と後翅基部との距離より著しく短い。下唇肢の各節は円筒状で、等長、外葉の肢の後部は蝶鉸節よりはるかに短い。南半球、特にオーストラリアに多い。

日本からは *Colletes*, *Hylaeus* の2属が知られ、29種が報告されている。

(237''') オモナガチビムカシハナバチ

Hylaeus perforatus (Smith, 1873)



♀体長7mm内外、前翅長5mm内外、体は黒色、翅は透明、翅脈、縁紋は黒褐色。前脚脛節の基部、後脚脛節の基方1/3は黄～淡橙黄色。腹部は光沢に強い。頭部、胸部は点刻密。顔面下方の複眼と頭部に挟まれた三角状部、頭前縁に

日本昆虫図鑑 (安松, 1950)

近い1紋、前胸背板後縁の中央で切断された横斑、前胸背板側面の後方に突出した部分は黄色である。中胸背板は広く大きい。

分布：本州

宝塚では東洋町武庫川堤防

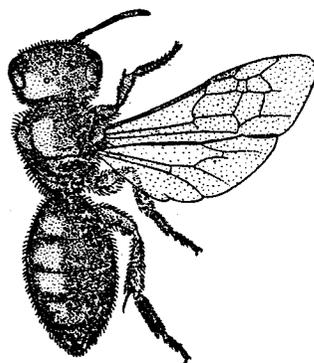
(20-Aug.1983, 新家勝採集)

『宝塚の昆虫Ⅶ』p.256 (237''') の次へ追加する。

コハナバチ亜科 Halictinae

(237''''') アカガネコハナバチ *Halictus aerarius*

Smith, 1873



♀体長8mm内外、前翅長5mm内外、体は銅色、光沢強い。翅は透明、翅脈・縁紋は黄褐色。体は灰白色毛で被われている。腹部1～4背板後縁は灰白の臥毛の横帯がある。

♂体長6mm内外、前翅長5mm

日本昆虫図鑑 (安松, 1950)

内外、腹部第5背板後縁まで灰白の臥毛横帯がある。第2、3背板基部の縷れは♀より顕著となる。触角鞭節は長い。

分布：北海道・本州・四国・九州・対馬・屋久島；ウズリー・シベリア・中国、朝鮮半島、台湾

宝塚では東洋町武庫川堤防

(20-Jun.1983, 新家勝採集)